

紹介・関西大学図書館影印叢書 第一巻

片桐洋一解題 『古今序聞書』

田 中 登

平安時代の代表的文学たる伊勢物語や古今集に関する中世の注釈書は、荒唐無稽な説で充ち溢れている。が、現代に生きる我々には一見不合理とも思えるデタラメ振りの背後に、実は中世人なりの独自の合理主義があり、それゆえにこそ、これらの注釈書が謡曲や軍記物語など中世の文学に多大な影響を与え得たことを、戦後の研究史の中で実例を以て証明してきたのは、伊藤正義氏であり、片桐洋一氏であった。我々はこうした注釈書類を通じて、初めてあの豊饒な中世文学世界を垣間見ることができるのであり、また、現代の中世文学研究は、これら注釈書が存在を無視してもはや成り立たない、といっても過言ではなからう。

さて、本書は、関西大学図書館影印叢書の第一巻として、同図書館の所蔵になる「古今序聞書」(分類番号 C 九一一、二三五一

K一・二)を影印出版したものである。解題担当者は本学教授の片桐洋一氏。

該本の書誌を解題より摘記すれば、縦二七・一穂、横二〇・七穂の袋綴上下二冊本。本文料紙は楮紙。表紙は墨流し文様のある斐楮混漣。題簽は剥落して今はない。墨付は上冊五十九丁、下冊六十丁。遊紙は上下冊ともなく、最終丁はこれまた上下冊とも後表紙に貼り合わせて見返しとなっている。内題は目録の後、注釈本文の始めに「古今序聞書」とある。書写年代は慶長(一五九六―一六一五)の頃。

この「古今序聞書」は、一般に「古今和歌集序聞書三流抄」とか「三流抄」と呼ばれているものであり(この書名自体片桐氏の命名による)、伝本も東京大学図書館、京都大学図書館、宮内庁書陵部、

彰考館文庫、佐賀県立図書館、初雁文庫、叡山文庫、天理図書館、片桐洋一氏所蔵のものなど、少なくない。以て本注釈書が中世から近世にかけて広く読まれていたことが知られるのである。

かように多い「三流抄」の諸伝本にあって、本書で影印紹介される関大本の特色は、いったい奈辺に求められるのであろうか。

まず冒頭に、「第一大和哥と云事」から始まって「第卅七すべらぎの君のあめの下しろしめすと云事」に至るまで、目録を持っていることが挙げられよう。これは関大本にだけ見られる特色である。

だが、この目録を持っているということは、必ずしも関大本の長所となるわけではない。なぜなら、この「三流抄」は天理図書館本が「古今集序問答」と題しているように、「問」「答」という問答体がその基本構造となっているにもかかわらず、関大本は目録を付した関係上、問答体を改め、「一云事」というような見出しを立て、本文もそれに合うように直してしまっているからである。こうした現象を押さえて片桐氏は「要するに、この関大本の『目録立て』『項目立て』は、問答体を改めた二次的な体裁であると言わざるを得ない」という。

次に注意すべきは、その奥書である。関大本には、他の諸伝本には見られない、次のような奥書がある。

書本云、徳治二年十月七日、誂或人書写之畢。……

徳治二年（一二三〇七）は鎌倉時代後期のこと。片桐氏蔵甲本が弘安元年（一二七八）の、東大本が弘安九年（一二八六）の成立奥書を持っているのを今そのまま信じるとすれば、「関大本は成立後二十五年をも経ていない時期に写された書本を写写したものである」ということになり、徳治二年に書写された書本が既に前述のように和らげられた第二次的な内容に変貌していたということになれば、鎌倉時代後期における「三流抄」の享受がきわめて広い範囲でなされていたことを示すものと言えよう」と片桐氏は言う。これは、「三流抄」の他の諸伝本がほとんど江戸中期の写本であるのに対して、唯一関大本だけが慶長年間と江戸初期にまで遡ることができることと相俟って、関大本の存在意義を世に大きく主張しうる特色といえよう。

その他解題では、注釈本文の増補部分や省略部分など、具体例を挙げての関大本の特徴が述べられているのは勿論のこと、関大本特有の誤脱や誤字と覚しき点も的確に指摘され、「三流抄」の一伝本としての関大本の性格が余す所なく論じられている。

そして、最後に、関大本をも含めた「三流抄」の注釈方法と流布状況が述べられ、以て「三流抄」の中世文化に与えた影響の意義が説かれているのは、片桐氏ならではの解題といえよう。

人生に幸、不幸があるように、典籍の運命にも運、不運というも

のがある。長い歴史の中で度々起こった戦禍や大火で湮滅してしまつた本も少なくないし、また、たまたま現在まで全き姿を保ち得ながら、愛好家のもとに秘蔵され未だ日の目を見ない本も多からう。その点、関大本「三流抄」は、関西大学図書館という永住の地を見出したばかりではなく、片桐洋一氏という望みうる最高の解題者を得て世に紹介され、まことに幸運な本だというより他ない。(平成九年一月刊 A5判 影印二四八頁解題二四頁 一五四五〇円 関西大学出版部)

(たなか のほる／関西大学教授)